

実習 1 生活の質を上げる工夫を学ぶ（疑似体験歩行訓練含む）

大島眼科病院 山田 敏夫

近年、視能訓練士に求められる業務も拡大し、その中でロービジョン者・児へのロービジョンケアを専門に行っている眼科も増加してきている。これからの視能訓練士は、視機能の評価・訓練のみならず、ロービジョンに対する教育や生活など社会との関連性についても十分な知識が必要となってきた。このようなことから実習 1 の目的として、次の 2 点を挙げた。

- ①ロービジョンの疑似体験を通してロービジョン者・児の読みや書き、食事、買い物、歩行など、学習・日常生活の動作を想定した不自由さ、不便さを学ぶ。
- ②視能訓練士としてどのようにしたら、ロービジョン者・児の生活の質を上げられるか、その工夫を考える。

最初に街でよくみかける障害者のシンボルマークについて解説した。そのあと参加者に眼を閉じてもらい、自分自身が朝起きてからの日常生活・行動について頭の中でシミュレーションを行い、全盲・ロービジョンになった状態をイメージしてもらった。次に 4 名を 1 グループとして、疑似体験に使用する教材（アムスラチャート・折り紙・読字書字用紙・ロービジョン者の初期評価表・30 cm 用視力表・1m 用視力表・読字倍数評価表・アイマスク・疑似眼鏡・さいふ・硬貨・ランチョンマットなど）を確認させた。その後、疑似眼鏡を装用して遠見・近見視力やアムスラチャートで見える範囲の測定をした。疑似体験として、折り紙を折ることや用意していた用紙での読字や拡大鏡を使用して書字をさせた。日常生活の場面では、飲食を想定して紙コップに水を注ぐ工夫など日常生活用具を使用して実習を行った。食事での工夫では、ランチョンマットの色の選択、箸・さじ・フォークの色の選択、食事素材の視認性について疑似体験を行った。また買い物の工夫では、硬貨の弁別（1 円、穴なし 5 円、穴あき 5 円、ギザ付 10 円、ギザなし 10 円、穴なし 50 円、穴あき 50 円、100 円、500 円）紙幣の弁別（1,000 円、2,000 円、ホログラム 2 種類の 5,000 円、10,000 円）、さいふの工夫などの体験を行った。

まとめとして下記の相談事例を挙げ、視能訓練士としてどのように対応したらよいか、生活の質を上げられるか、その工夫を考えさせた。

- ①急激な視力低下で今までのように家事ができなくなった女性。
- ②視野障害で家庭の中でも生活がし辛くなった 50 代男性。

歩行体験については、独歩・手引きの方法の説明を行った後、アイマスクや手動弁から 0.3 までの疑似眼鏡、また視野狭窄 3 度から 10 度の眼鏡を装用して移動・手引きの体験をした。また屋内・屋外の遮光眼鏡の有効性について説明した。

最後に、視能訓練士としてロービジョン者・児の生活の質を上げる工夫を学ぶことの大切さについて講習会参加者から感想を聞き、実習 1 を終了した。